

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191900016		
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家 戸田		
所在地	埼玉県戸田市新曽1038-1		
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成28年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階		
訪問調査日	平成 28 年 9 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の思いを大切に『安心・充実した自分らしい生活～居心地の良い環境作り』を介護理念として、その人らしい生活を送っていただけるように努めている。職員は入居者様と共に生活を楽しみ、助け合い感謝の言葉を忘れずに入居者様が日常生活にメリハリを持って頂けますように取り組んでいる。第二の我が家として、当ホームを選んでくださった入居者様、ご家族の思いに応えられますように開設十年目を迎え思いを新たにしている。地域の方々との交流を通して、社会との繋がりを大切に考え、納涼祭・避難訓練にはたくさんの方の参加を頂いている。今年度は納涼祭に七十名の方が参加され、入居者様の笑顔がたくさん見られたことを嬉しく思っている。入居者様の日常が安心・安全で楽しい日々となりますように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階にショートステイを併設した2ユニットのグループホームである。管理者と職員は利用者が安心して充実した自分らしい生活を送ることができるように、居心地の良い環境作りを目標にしている。管理者は認知症についての市民講座を担当し、地域の中で積極的な周知活動を行っている。長年、職員に離職者がいないことは、利用者と家族にとって安心できることである。近隣との交流も盛んで、毎年町内会の夏祭りのおみこしが施設の玄関前に寄ってくれる。近隣の寺院の好意により、広い境内が利用者の方々の散歩のコースになっている。定期的に訪問販売車が来訪し、利用者はお菓子を買い物をすることを楽しみにしている。ボランティアの受け入れが多く、南京玉すだれ、フラダンス、社交ダンス、日本舞踊、楽器演奏等のボランティアが訪れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年職員会議にて介護理念について話し合いを行い立案している。介護理念を壁に貼り共通の認識の下取り組み実践につなげている。壁に張り出ししておくことで再認識できるようにしている	法人、事業所独自の理念と共に、職員全員で話し合い年度目標を決めている。笑顔で声かけをして、利用者の気持ちに寄り添い、明るく居心地の良い第二の家作りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に出席して頂いたり、消防訓練に参加して頂いている。散歩のときは近隣の方への挨拶を行い交流を図っている	自治会に入会し、行事には積極的に参加をして地域との交流が盛んに行われている。管理者は市の介護予防の行事に町会長、婦人会と共に参加している。近隣の高校の介護実習生を毎年受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて利用者様の活動報告や支援の方法を伝えている。また地域の方たちが認知症について知りたいことや支援方法について意見を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況やレク行事の報告を行い、またご家族様や地域の方たちの意見や希望を伺いサービスの向上が図れるよう取り組んでいる	2か月に一度、地域包括支援センターの職員、市の職員、婦人会長、民生委員、家族の出席を得て開催されている。水害対策や虐待防止、水分摂取等その時々でのニュースで聞く課題を話し合い、検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き事業所の状況報告を行い、意見交換することで協力関係を築いている	市の窓口へは書類申請等で頻繁に出向き、市の職員も事業所の見学に訪れて協力関係は密である。管理者は市主催の認知症についての市民講座を担当し、認知症やグループホームについての周知に努めた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の後に身体拘束廃止について話し合いを行っている。身体拘束になり得る状況、言動を職員一人一人が注意してケアにあたれるよう取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止、虐待防止の委員会を設けている。職員は法人や行政主催の研修会には必ず出席しており、何が身体拘束や虐待に当たるのかを常に話し合っている。利用者に対する言葉遣いにも十分配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	援助方法につて虐待と受け取られるようなことはないか職員会議にて話し合い、一人一人が目配り防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見制度を利用されている方がおられた為職員は理解できている。研修で学ぶこともありフィードバックを行い理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前と契約時に説明を行い疑問や不安など無いか確認している。十分な時間を設け、理解、納得して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階玄関に社長に直接届く意見箱があり、その案内を2階入り口に表示している。利用者様やご家族様の意見はお茶の時間や面会時等ゆっくりした時間が持て意見が言いやすい環境で行うことを心掛けている	運営推進委員会への家族の出席が多く、意見や要望を聞く機会になっている。家族の面会時には積極的に話しかけて意見を聞いている。事業所内の設備についての要望が出され、改善に向けて計画が進んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送りのときに意見を聞いている。業務申し送りノートの活用も行っているエリア担当のスーパーバイザーの訪問もあり職員の意見を伝えている	職員会議では活発に意見交換がされている。申し送りノートでも意見が多数提案され、検討されている。運営に関して管理者と職員が互いに信頼し合う関係であることが、長年離職者がいないことから伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が各職員の努力や勤務状態を把握している。エリア担当のスーパーバイザーが訪問し管理者からの報告を受けるため、各職員が向上心を持ち働きやすい職場環境となるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職階別の研修があり、職員に合わせた研修が受けられるようになっている。研修後も全職員が把握できるようフィードバックを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時に他のホームとの情報交換を行うなど交流を図っている。また近隣の他会社の事業所を回り交流を図りサービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配なことはないか声かけを行い、話を傾聴し不安を和らげられるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず困っている事はないか確認を行い不安解消に努めている。また、ご家族様の体調面も気に留めながら声かけを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様が何を望んでいるのかを把握しニーズと課題分析を行い必要なサービスの提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様と一緒に家事やレクを行い、生活を共にしているという関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や運営推進会議、面会時等にご家族様と話し合う機会を持ち、思いを理解しようと努めている。必要な時はご家族様の協力を得ながらケアを行うため関係を築けている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方を行事に招いたり、親族、友人に年賀状を出したりすることで関係が続いているよう支援している	かつての教え子から年賀状が届いたり、家族の了解を得た友人や知人が訪れて昔話をしている。好物のお寿司やお刺身を食べに外食にも出かけ、馴染みのものとの関係が継続できるように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事等の役割を通しお互い支えあう関係ができています。職員が間に入ることでさらに輪を広げられるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方でもご家族様に連絡を取りご本人の様子を伺ったりしている。入院されている方へは、ご家族様に了解を得てから面会に行かせて頂いている		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を確認しプランに反映している。日常の会話にも耳を傾け希望や意見を把握できるよう心がけている	利用者の生活歴や好みを職員全員が把握している。常に同じ目線で話しかけて思いや意向を聞き、申し送りノートで共有している。言葉が困難な利用者には表情からくみ取るようにしている。	管理者と職員は利用者と家族の思いに応え、グループホームを「居心地の良い第二の我が家」と思ってもらいたいと考えている。日々の実践が更に利用者へ届くことを期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に生活歴の聞き取りを行い、情報を共有し職員が把握できるよう努めている。日々の様子、会話からも把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを観察し言動などから心身の状態を把握するよう努めている。職員同士で情報交換を行い、アセスメントすることで有する力の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に合った介護計画を立てるため、日常の観察、定期的なモニタリング、カンファレンスを行っている。また、介護計画の見直しやご家族様の希望も含め立案、作成している。	ケアプラン作成にあたり、利用者と家族の気づきや意見を反映するために「ケアプラン意向記入のお願い」を提出してもらっている。職員のモニタリングと合わせて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子やケアの実践は記録に記入し、朝、夕の申し送りにて共有している。介護計画の内容と合わせて記録が書けるよう一緒にファイルしケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要なニーズに対して医療や地域をはじめ様々な分野との連携を図り、より良い対応ができ、柔軟な姿勢で支援できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の祭りで神輿を見たり、地域の方にボランティアに来て頂いたり季節を感じ生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医の訪問診療は月に2回行っている。希望する医療機関があればそれに応じ支援している。通院は基本ご家族様対応だが、状況に応じて職員も対応し協力している。	月2回の内科診療と月4回の歯科衛生士の訪問がある。外部受診は原則家族対応だが、職員が同行する場合もある。医療機関への連絡等のマニュアルも整い、夜間の緊急時は、管理者が駆けつけて対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師は月4回訪問される。医療に関することを相談し受診が必要か判断してもらう等適切な支援が行えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には面会に必ず週1回は伺い利用者様の状態を把握し、病院関係者やご家族様から状態、状況を聞き情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には説明を行っているが、ADLの低下や利用者様の状態により、その都度説明をさせていただいている。往診医や医療連携看護師とも連携を図っている	家族には入居の際に事業所としての指針を説明している。実際に重度化した場合や終末期には家族、医師、訪問看護師、職員が連携して利用者にとって最適なケアを実践できるように心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各利用者様の疾病の把握を行い、おこり得る急変の発生に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ショートステイと合同で年2回消防訓練を行っている。利用者様も含め避難経路の確認を一緒に行っている。地域の方の参加や消防士の方に来ていただき指導してもらい協力体制を築いている	年2回(1回は消防署員立ち合い)、利用者と家族、近隣の方々の参加を得て避難訓練を行っている。AED設置も近隣に周知をしている。防災マニュアルを完備し、水や食料、衛生用品等の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者様の生活歴を把握し、人格を尊重しプライバシーを損ねないよう配慮した対応を心掛けている。言葉づかいは常に職員会議にて話し合いを持ち対応方法に気をつけている	個人情報書類は事務室のロッカーに保管し施錠している。入浴や排泄支援時は羞恥心への配慮を忘れずに静かな対応を心がけている。職員は常に利用者の尊厳を損なうことがないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には食べたい物を伺い自己決定できるよう支援している。ケアプラン作成時ご本人の意向を伺い、希望や思いを出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活パターンを把握したうえで個人の趣味を取り入れ希望に沿った支援ができるよう取り組んでいる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際には化粧をしたりマニキュアを塗ったりしご本人の希望に合わせた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやおやつ作りを一緒に行ったりしている。おやつ作りは会話の中からヒントを得て一緒に作る機会を設けている	見た目にも美味しい食事を心がけ、時には松花堂弁当風にアレンジしている。おやつは、おはぎやどら焼き等を一緒に作り、手作りを楽しんでいる。和、洋食レストランでの外食もやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下能力に合わせてミキサー、キザミ、粗キザミ等で提供している。水分の少ない方には好みの飲物を提供し補っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回歯科ドクター、月4回歯科衛生士の訪問にてケアの援助方法を相談したり、指導をして頂きながら個々に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握したり、行動等で判断し早めの声かけを行うことでトイレでの排泄を促し、おむつの使用量を減らしている	排泄チェック表をもとにトイレ誘導を行っている。個々の排泄パターンを把握して声かけをしている。温かいお尻ふきを使用して清潔が保たれるようにしている。夜間居室でポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や運動を促し便秘予防に努めている。また、寒天や乳製品を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時は決定していないので、本人の体調や希望に合わせて行っている。入浴剤の使用や季節に合わせたゆず湯、菖蒲湯等行い、楽しんで頂けるよう工夫している	リフト浴が設置されており、週2回以上午後の時間帯に入浴してもらっている。好みの石鹸やシャンプーを使う利用者もいる。入浴は利用者と職員の会話がはずみ、利用者の希望や意向を伺うひとときでもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや習慣を把握し、気候や希望に合わせて室温調節を行っている。室温調整を行うことで安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は職員への申し送りを徹底し、注意深く観察を行い、記録に残したうえで往診時にドクターへ報告し再度指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の片づけ、部屋の掃除、洗濯物干し、たたみ等その方に合った役割を行っている。また歌のDVDを見ながら歌ったりして気分転換できるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩時には利用者様にコースを決めて頂いている。また、外食の行事にはご家族様にも参加を呼び掛け協力を得られている	体調と天候を考慮しながら日常的に散歩に行き、車椅子の方も一日おきに外気浴に出かけている。数名の利用者は近くのオレンジカフェに参加して会話を楽しんでいる。定期的に訪問販売車が訪れ、利用者は玄関前での買い物を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人がお金を持っている事はありませんが、管理者が預かり金として希望に合わせて使えるよう管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には挨拶の手紙等送れるようにしている。電話もご家族に迷惑がかからないよう配慮し支援している。また、ご家族様からの電話の取り次ぎも行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは毎日掃除を行い、清潔感を保っている。また、季節ごとに飾り付けを行ったり、季節の花を飾ることで季節を感じられ居心地良く過ごせる様工夫している	リビングと廊下は広々として移動しやすい。窓が多く明るく開放的な雰囲気である。館内にはいろいろな行事の楽しかった思い出の写真が展示されている。利用者が職員と共に製作した縁起物や季節物の立体的な貼り絵作品も多く飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファが置いてあり一人でくつろがれたり、利用者様同士でお話して過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、ベッド、クローゼットは備え付けられており、そのほかで希望に合わせて使い慣れたものを相談しながら持ち込んで頂き、在宅時に近い環境をつくり、居心地良く生活できるよう工夫している	窓からベランダ越しに光が入り快適である。エアコンの調整はスタッフルームで集中管理されている。利用者には使い慣れた品を持ち込んでもらい、入居後も以前の生活習慣を継続してもらえるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れるよう常に環境整備を行い、声かけ、見守りを行っている。また浴室の手すりの位置を変えたりして自立支援が行えるよう工夫している		